

## 大草重康先生の逝去を悼む



(読売新聞社提供)

新潟大学積雪地域災害研究センター教授、大草重康先生は、1989年8月8日不慮の事故により逝去されました。享年53歳でした。

先生は1974年3月に発生した粟島の海底地すべりの調査のため、自ら潜水調査中事故に遭われ、同行していた職員や学生らの必死の介護の甲斐もなく、ついに甦生はかないませんでした。この訃報は、平素非常にエネルギッシュに行動されていた先生を知る私たちにとっては、にわかには信じ難いことでした。また、先生はこの7月にセンター長に就任されたばかりであり、学内外の先生に対するこれからの期待も大きかっただけに、まさに痛恨の極みでありました。

先生は1935年9月に、本県村上市の旧家にお生まれになり、1959年3月に京都大学理学部地質鉱物学科をご卒業後、株式会社応用地質調査事務所に入社されました。その後1964年11月に東海大学より海洋学部海洋土木工学科講師として向かえられ、1972年4月には同大学教授に就任されました。さらに1988年4月にはかねてからの望みであった郷里の新潟にお帰りになり、新潟大学積雪地域研究センター教授として向かえられ、1989年7月には同センターのセンター長に就任されました。

先生のご研究は概ね1960年代、1970年代、1980年代の三期に分けられ、それぞれ次のような研究活動をされています。

1960年代はおもに岩盤力学に関するご研究が中心であり、1968年には「A theoretical study of the strength of rock with weak planes and its application to geotechnique and tectonophysics」に対して京都大学より学位を授与されています。

1970年代は海底堆積物に関するご研究が中心であり、その地質工学的特性やサンプリング技術および波の海底堆積物への影響などについて、先駆的な業績を挙げておられます。

1980年代は海底堆積物に関するご研究をさらに追求されると共に、地震に伴う液状化や斜面崩壊に関する問題にも取り組まれ、1987年3月に発生したエクアドルの地震や1989年1月に発生したソビエトのタジク地震の現地調査にも参加されています。さらに新潟大学に移られてからは、地すべりの問題にも取り組んでおられました。

これらの論文の大半は単に英文で書かれているということだけではなく、実際に海外での学会活動にも積極的に参加され、その先駆的な業績は諸外国の学者によっても高い評価を受けています。このため、海外における知人や友人も多く、1989年6月に新潟市で開催された新潟地震25周年記念シンポジウムで講演いただいたカナダ、ブリティッシュコロンビア大学のフィン教授もその一人であります。

また、先生は社会にでられてからも数学や語学などの基礎的な学問を寸暇を惜しんで勉強されたと聞いており、その成果は多くの著書や訳書に現れています。特に先生は一般の学者が英米や西欧の研究にのみ目を向けがちであるのに対して、お若い頃よりすでにソビエトの研究に興味を持っておられたようで、ロシア語に堪能であり土質力学や地滑り工学に関する大冊の訳書のあることは衆知の通りであります。さらに先生は理学の出身でありながら積極的に工学的な問題に取り組み、ある面では土木工学の専門家をしのぐ知識をお持ちになり、理学と工学の境界領域の問題に最も精通した学者であったといっても過言ではないでしょう。

そのことは先生独自の著書「土地質学」(朝倉土木工学講座)を見ても明らかなことであります。一方では若い研究者や技術者の育成にも力を注がれ、1981年以後14名の学位審査にも当たっておられます。

一方、土質工学会や土木学会などの各種委員や理事としての学会活動にもご尽力されると共に、技術士試験委員なども歴任されておられます。先生のこれらのご功績に対して1989年10月には土質工学会より功労賞が送られました。

先生は誰に対しても実に気さくに付き合われ、飲めばかなりくだけた話もされるし、普段はわれれ学生にとっては本当に兄貴分か餓鬼大将という感じさえ受ける一面もありました。しかし、勉強や研究活動に関しては極めてきびしく、何よりも先生ご自身に最も厳しい方であったと思います。実際に、先生のゼミは週に4日もあり、しかもいずれも朝の1時限から行われておりました。それにもかかわらず、みんな理由もなく休むようなことはなく学生の先生に対する信頼とそこご人徳を示していた一面であろうと思われます。

先生は本年9月に予定されていたヨーロッパ旅行をかなり以前から楽しみにされ、すべてご自分で準備されていただけに、この旅行が主のいないものとなってしまったことは返す返すも残念なことでした。謹んで哀悼の意を表し、心かご冥福をお祈り申し上げます。

ご遺族は奥様と、ご長女、ご長男、ご次男ですが、村上市の実家にはご両親が健在でいらっしゃいます。現在奥様はご次男とお二人でご生活であり、下記の住所にお住まいです。

大草ミツ様 新潟市五十嵐二の町新潟大学職員住宅 R A501

(新潟大学自然科学研究科 野崎 保)